

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表

【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名：社会福祉課（地域共生係）

計画名	逗子市地域福祉推進計画
取り組みの方向	1 「その人らしく生きること」をお互いに支え合う福祉のまち
具体的施策	①地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の構築

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

地域包括センターが担当した相談支援のうち、他機関との協働を実施した件数が、3包括支援センター合計で年120件になっている。



【現状：2024年度（令和6年度末）】

多機関協働件数188件
（新規相談支援ケース45件）

【2024年度の取り組み実績】

事業名	地域共生社会推進事業	事業費（2024年度実績額）	26,791,089 円
<p>地域住民が抱える多様で複雑な地域生活課題の解決を図るため、包括的な相談支援体制の構築を目的として、地域包括支援センターに包括化相談支援推進員として社会福祉士を1名配置して、複合的な課題の解決について他機関との協働・連携を円滑に進めるためのコーディネート・ファシリテート等を担うとともに、課題に応じて地域資源とのマッチングを図り、要支援者の地域への参加支援を行った、支援を拒否するまたは支援が行き届かない要支援者については、地域包括支援センターが自ら出向き、支援者の状況に応じた支援を継続して実施している。</p>			

事業名	地域包括支援センター運営事業	事業費（2024年度実績額）	65,381,602 円
<p>令和3年度から、地域包括支援センターを地域における身近な地域生活課題の相談窓口として位置づけている。加えて、地域づくり事業、参加支援事業等の事業についても委託しており、重層的支援体制整備事業については地域包括支援センターと基幹型地域包括支援センターが一体となって実施している。設立の経緯から地域包括支援センターの相談内容は高齢、介護等の相談支援が多いが、複合的且つ深刻な日常生活課題による相談支援も非常に増えている。</p>			

【懇話会の意見】

地域包括支援センターは多機関協働事業だけでなく、本来の地域包括支援センター業務もあり業務過多である。市は地域包括支援センターの業務が円滑に進めるように後方支援を積極的に行うこと。また、生活困窮者等、支援が必要に関わらず支援を求めない要支援者の掘り起こしが必要。行政も住民やボランティアと連携して、多角的な支援体制を構築すること。

【自己評価】

重層的支援体制整備事業を開始して4年目となり庁内外の関係機関と情報共有や勉強会等の取り組みを進めたことにより、年々、関係機関との信頼関係が深まってきている。支援計画に係る新規の個別相談も45件と増えていることから、包括的相談支援体制構築のため効率的・効果的な連携・協働を更に進めていく必要がある。。

【課題の分析と今後のアプローチ】

- ・ 地域生活課題を有する要支援者の一人ひとりについて丁寧な支援を行うとともに、支援の過程、結果について検証を行い改善に繋げる。
- ・ 多機関連携にも係る包括的相談支援を効率的、効果的に進めるためには、適切な要支援者情報の共有、管理が必要であることから、まずは庁内の関係各課と地域包括支援センターを結んだ包括的相談支援における相談支援の共有システムを構築する。
- ・ 必要にも関わらず相談支援が届かない要支援者に対するアウトリーチ等による積極的支援を実施。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表

【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名： 国保健康課

計画名	逗子市健康増進・食育推進計画
取り組みの方向	2 医療・保健・福祉が連携した安心・健康長寿のまち
具体的施策	①健康づくり・食育の推進

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

【現状：2024年度（令和6年度末）】

国民健康保険被保険者の1人当たり医療費の伸び率を、県平均以下に抑制している。	1.44%（県平均2.17%）
--	-----------------

【2024年度の取り組み実績】

事業名	健康増進・食育推進計画推進事業	事業費（2024年度実績額）	3,512,808 円
<p><取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> 健康増進・食育推進計画推進事業の展開（健康づくり推進事業の推進） 「未病を改善する半島宣言」の推進 <p><説明></p> <ul style="list-style-type: none"> 健康づくり・食育の推進のため未病センターなど、様々な媒体を活用した情報発信及び健康・栄養相談や健康づくり出前講座などの普及啓発事業を実施する。 健康増進・食育推進計画懇話会を開催し、計画の進行管理及び推進を図る。 「逗子市健康増進・食育推進計画」に基づいて、関係機関等と連携し、健康づくりや食育、疾病予防の啓発事業を行う。 健康寿命の更なる延伸と生活の質の向上をめざし、三浦半島4市1町が、特に保健・福祉分野において積極的に連携を図り、県の未病を改善する取り組みに参画する。 <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 2023年3月に「逗子市健康増進・食育推進計画」を策定。 逗子市健康増進・食育推進計画懇話会を2回開催して進行管理した他、庁内8課の担当者を集めた逗子市健康増進・食育推進計画担当者会議を設置・開催。全庁的に連携して計画を推進する体制を整えた。 未病センター（市役所）では、9時～12時、13時～16時まで看護師や管理栄養士が常駐する体制にした（2024年度 243日開設、4498人利用）。 広報誌やHPの他、LINEなどを活用して健康や食育、疾病予防に係る情報や講座などの情報を発信した。 県の健康支援プログラムや子どもの未病対策応援プログラムを申請し、講座を開催。 <ol style="list-style-type: none"> ①（サンスター株式会社）オーラルケア講座：7/11、21人参加 ②（株式会社ツムラ）ツムラの漢方講座：7/17、27人参加 ③（株式会社サンドラッグ）健康測定・相談会：10/8、38人参加 ④（NPO法人ダンスライフコミュニケーションズ）脳トレリズム体操：10/20、22人参加 ⑤（第一生命保険株式会社）子どもの走り方教室：2/15、56人参加 県のアプリ『マイME-BYOカルテ』を活用した健康ポイント事業を開催（10/10～1/31）297人参加 未病センター利用人数：35,212人（市役所：4,498人（18.5人/日）・アリーナ：30,714人（97.2人/日）） 			

事業名	特定健診・特定保健指導事業	事業費（2024年度実績額）	44,945,619 円
<p><取り組み> 特定健診・特定保健指導の推進</p> <p><説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・40歳から74歳までの国民健康保険加入者を対象とした特定健康診査を実施する。 ・健診結果から、必要な者に対し保健指導を行う。 ・データヘルス計画・特定健康診査等実施計画に基づき、健康診査及び保健指導を実施する。 ・若い世代に対して健診・検診の受診啓発を行う。 <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度から特定健診の自己負担額を無料にして実施（2022年度迄は1500円）。 受診率（確定値）：2022年度：32.3%、2023年度：37.1% ・特定保健指導は集団健診会場で初回分割を行っている他、健診結果から対象者へ通知・電話。 未病センターで保健師・管理栄養士が特定保健指導実施。実施率（終了率）（確定値）：28.0% ・2024年3月に「逗子市国民健康保険第3期データヘルス計画・第4期特定健康診査等実施計画」を策定。 ・若い世代に対しては「アプリで健康ポイント ゲットキャンペーン！」を主催し、健診受診を条件として若い世代向けのインセンティブを準備して受診を促した。 			

事業名	成人等保健事業	事業費（2024年度実績額）	132,422,593 円
<p><取り組み> 女性のがん検診の充実（子宮頸がん検診の充実）</p> <p><説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性に対して、集団・個別での検診を実施する。 ・無料クーポン券を発行し、受診を促進する。 <p><実施状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子宮頸がん検診を実施。集団：6回。施設：通年。受診者数：1,995人。要精検者数：29人 ・がん予防講演会（10/30「いまさら聞けない乳がんのこと」）を開催。38人参加。 ・「広報ずし9月号」で巻末記事を掲載した。 ・3歳児健診・就学児健診・成人式で検診受診を勧めるチラシを個別配布した。 			

【懇話会の意見】

取り組みの内容を工夫しながら、目標達成のために事業を進められている。

【自己評価】

健康増進・食育推進を進めるための懇話会を開催し、市民を含めた関係機関からの助言を得ることや、特定健康診査の受診率を上げること、健康に関する正しい情報発信をしている。

【課題の分析と今後のアプローチ】

健康増進・食育推進計画を推進しつつ、健康に関する正しい情報を発信する。また、健診や検診の受診率を上げることで疾病を早期発見し、重症化を予防することで医療費の適正化を図る。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表

【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名： 国保健康課

計画名	逗子市健康増進・食育推進計画
取り組みの方向	2 医療・保健・福祉が連携した安心・健康長寿のまち
具体的施策	②感染症予防対策の推進

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

【現状：2024年度（令和6年度末）】

予防接種対象者への個別通知の送付率100%を維持している。



100%

【2024年度の取り組み実績】

事業名	成人等保健事業	事業費（2024年度実績額）	132,422,593 円
-----	---------	----------------	---------------

<取り組み>

感染症予防対策の推進

<説明>

- ・ 感染症の流行等について、情報の収集及び市民への周知を行い、注意喚起する。
- ・ 具体的な予防行動の知識普及を行う。
- ・ 予防接種がある感染症については、接種が促進されるよう環境を整える。

<実施内容>

- ・ 高齢者肺炎球菌予防接種・高齢者帯状疱疹予防接種対象者への個別通知。個別通知の内容としては予防接種の実施期間・実施医療機関・自己負担額・ワクチンの種類・実施にあたっての注意事項など
- ・ HPや4月上旬の広報掲示板を活用した市民への周知。

【懇話会の意見】

目標に対する評価は妥当と言える。

【自己評価】

高齢者肺炎球菌予防接種・高齢者帯状疱疹予防接種においては、費用の一部助成を受けられるのが生涯に一度であることから、全対象者へ個別通知を100%実施し、予防接種の実施期間・実施医療機関・自己負担額・ワクチンの種類・実施にあたっての注意事項などの周知を徹底できている。また、個別通知だけでなくHPや4月上旬の広報掲示板などで予防接種についての情報の普及啓発を行っている。

【課題の分析と今後のアプローチ】

肺炎（日本人の死因の第5位）は死亡者の95%以上が高齢者であり、帯状疱疹はその発症が日常生活に支障をきたすことがあることから、高齢者への周知をさらに徹底する。特に、高齢者からはワクチンの種類についての問い合わせが多いことから、ワクチンの効果・費用・副反応・注意事項などの周知に努める。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表


【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名： 国保健康課

計画名	逗子市健康増進・食育推進計画
取り組みの方向	2 医療・保健・福祉が連携した安心・健康長寿のまち
具体的施策	③地域医療体制の推進

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

【現状：2024年度（令和6年度末）】

<p>「一番不便または不満を感じる事柄」について、「医療施設が整っていない」と回答する人の割合が20%以下になっている。</p>	 <p>29.60%</p>
--	---

【2024年度の取り組み実績】

事業名	在宅医療・介護連携推進事業	事業費（2024年度実績額）	23,639,700 円
<p><取り組み> 在宅医療介護連携の推進</p> <p><説明> 多職種による医療・介護連携支援体制の強化を図るため、逗葉地域在宅医療・介護連携相談室において在宅医療・介護サービスを提供している関係者からの相談・支援や対象者の支援に必要な、医療・介護等の情報提供、多職種連携会議や研修会などを開催する。</p> <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談事業計117名（延419件） ・逗葉地域在宅医療・介護連携相談室多職種連携会議（2回） ・逗葉地域在宅医療・介護連携相談室多職種連携研修会（2回・参加者計145人） ・医療・介護・福祉職員向け研修（井戸端サロン）（6回・参加者計153人） 			

事業名	地域医療充実事業	事業費（2024年度実績額）	159,386 円
<p><取り組み> 地域医療の充実（総合的病院誘致の推進）</p> <p><説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師会・歯科医師会・薬剤師会・葉山町等で構成する、逗子・葉山地区医療保健福祉対策協議会で地域医療の充実に向けて連携強化等の検討を行う。 ・総合的病院の誘致を含めた今後の逗子の地域医療体制の充実に向けた検討を行う。 ・近隣病院の地域外部委員会等に参加するなど意思疎通を図り、市に必要な連携を要望する。 <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・逗子葉山地区医療保健福祉対策協議会（1回）、小委員会（3回）、災害時医療研修会および実地訓練（1回） ・逗子の地域医療検討会（2回）、「逗子の地域医療検討会 最終とりまとめ」を市長に提出 			

【懇話会の意見】

市民が安心して医療を受けられる体制づくりのために、現状の分析や課題を明確化し、継続して検討していくことを望む。

【自己評価】

- ・ 逗子葉山地区医療保健福祉対策協議会において地域医療の充実に向けて検討を行う。
- ・ 2023年度から2024年度にかけて、「逗子の地域医療検討会」において病院も含めた逗子に必要な地域医療について検討を行い、最終とりまとめを市長に提出した。

【課題の分析と今後のアプローチ】

逗子葉山地区医療保健福祉対策協議会での検討を継続する。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表

【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名： 国保健康課

計画名	逗子市健康増進・食育推進計画
取り組みの方向	2 医療・保健・福祉が連携した安心・健康長寿のまち
具体的施策	④地域自殺対策の推進

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

自殺者数が0人になっている。



【現状：2024年度（令和6年度末）】

8人（プロフィール・自殺日・住居地より）総合計画に合わせ、年度ではなく年（2024年1月～12月）の記載とした。

【2024年度の取り組み実績】

事業名	自殺対策計画推進事業	事業費（2024年度実績額）	192,495 円
<p><取り組み> 地域自殺対策の推進</p> <p><説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・逗子市自殺対策計画に基づき、生きることを支える人材の育成、市民への啓発・周知、地域・庁内組織間における連携の強化、生きることの促進要因への支援を推進する。 ・逗子市自殺対策計画は5年に1回の改定を行っていく。 <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・逗子市自殺対策計画推進懇話会：2回開催 ・逗子市自殺対策担当者会議：2回開催 ・ゲートキーパー養成講座開催：2回開催（教職員向け：7/30、17人参加、市民向け：3/15、32人参加） ・自殺対策普及啓発活動（2024年度から講座受講内でボランティアを募り、街頭での啓発活動を実施）3回実施（9/22 1人、10/20 2人、3/22 5人） ・自殺対策講演会：1回開催（9/21、55人参加） 			

【懇話会の意見】

取り組みは幅広く体系だって進められているので、引き続き進められたい。

【自己評価】

地域でのゲートキーパーの育成を継続して実施している。2024年度は、教職員向けのゲートキーパー研修を実施し、近年増加傾向が指摘されている子どもへの対応を強化した。自殺は健康問題、経済・生活問題、人間関係の問題のほか、地域・職場の在り方の変化など様々な要因があると言われており、庁内連携として自殺対策計画推進担当者会議を2023年度に開始。各課の現状を共有し連携促進できている。

【課題の分析と今後のアプローチ】

自殺対策に関する正しい情報を発信して自殺対策計画を推進。また、ゲートキーパーを増やし、庁内関係課とも連携して、生きることの包括的な支援を図ることで、自殺者数0を目指す。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表

【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名：社会福祉課（地域共生係）

計画名	逗子市高齢者保健福祉計画
取り組みの方向	3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまち
具体的施策	①健康寿命を延ばしてみんなで元気な高齢者をめざす取り組み

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

元気高齢者の割合が83%になっている。



【現状：2024年度（令和6年度末）】

元気高齢者（要支援、要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者）76.5%

【2024年度の取り組み実績】

事業名	一般介護予防事業	事業費（2024年度実績額）	16,121,083 円
-----	----------	----------------	--------------

健康寿命を延ばしてみんなで元気な高齢者を目指す取組の一環として高齢者の要支援・要介護状態の防止を目的とした介護予防教室を開催、その人に合ったカリキュラムを実施することで運動機能の維持向上に務めた。加えて介護予防・日常生活圏域ニーズ調査を実施し、結果に基づくアドバイスを個別に通知して介護予防に資するとともに、JAGES（日本老年学的評価機構）に過去のニーズ調査の分析を依頼。他市町村との比較により本市の強み・弱みを把握した。また、運動習慣を維持する取り組みとして「てくてc逗子」を実施したり、eスポーツ「太鼓の達人」を開催するなど、参加者が楽しく参加できる事業を開催した。

事業名	自立支援型介護予防・生活支援サービス事業	事業費（2024年度実績額）	5,506,680 円
-----	----------------------	----------------	-------------

要支援・要介護状態になるおそれのある者への介護予防を目的として、身体機能の向上を図る短期集中の通所型サービスの実施や、住民主体の団体による家事援助等を行う訪問型サービスを提供した。

事業名	地域介護予防活動支援事業	事業費（2024年度実績額）	5,554,896 円
-----	--------------	----------------	-------------

高齢者が要支援・要介護状態となることを予防するため、効果が見込まれる地域におけるサロン活動に対して財政的な支援を行うほか、社会福祉協議会を通じて健康運動などの専門職の派遣を行った。

【懇話会の意見】

- ・訪問サービスBを実施する事業所数については、目標を達成しており順調だと評価しているが、実際には今年度から事業を休止しているため、順調との評価には疑問がある。
- ・一般介護予防以外にも、実態と合わない評価指標を用いている事業が多く、目標自体の見直しが必要。

【自己評価】

- ・介護予防教においては一定数の参加者はいるものの、新規参加者が少ない。
- ・事業効果が可視化されていない。
- ・既存の各種データが効果的に活用できていない
- ・サロン活動の担い手の高齢化や後継者不足が解消されていない。

【課題の分析と今後のアプローチ】

- ・これまで介護予防教室に参加していなかった層等、潜在的に介護予防が必要と予測される新たな参加者が増えるような取組が必要。
- ・属性や地域における特性等の取り組みを考慮した介護予防のカリキュラムを実施することが効果的と思われることから、利用できるデータ分析を基に介護予防施策を企画実施する。
- ・サロン活動は貴重な地域資源と考えられるが、一方でその担い手の高齢化や後継者不足が課題となっていることから、住民自治協議会、自治会・町内会等の連携により持続的な運営ができる体制性となるよう支援を行う。
- ・これまでの実施してきた介護予防の取り組みを評価分析し、より効果的、効率的な取り組みとなるよう事業の再構築を行う。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表


【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名： 高齢介護課

計画名	逗子市高齢者保健福祉計画
取り組みの方向	3 高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるまち
具体的施策	②介護サービス等の保険給付

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

【現状：2024年度（令和6年度末）】

特別養護老人ホームの待機者数が100人以下になっている。		待機者数：121人
------------------------------	---	-----------

【2024年度の取り組み実績】

事業名	介護サービス等給付事業	事業費（2024年度実績額）	6,139,729,100 円
<p>事業所向け研修の実施、事業所への実地指導及び利用者への訪問調査等により適正な給付管理を行った。また、逗子市高齢者保健福祉計画懇話会にて、第9期逗子市高齢者保健福祉計画期間（令和6年度～令和8年度）における施設整備のあり方及び給付適正化の取り組みを検討した。</p>			

事業名	地域密着型サービスの提供（一般管理事務費）	事業費（2024年度実績額）	20,316,811 円
<p>小規模多機能型居宅介護及び定期巡回随時対応型訪問介護看護については、新設希望の事業所がなかったため、公募は未実施。 認知症対応型共同生活（グループホーム）の公募を実施し、1件の応募があった。 また、地域密着型通所介護1件の新規指定及び認知症対応型共同生活介護1件、認知症対応型通所介護1件並びに地域密着型通所介護2件の指定更新を行った。 <地域密着型サービスの設置数> 通所介護事業所13、認知症対応型通所介護事業所2、小規模多機能型居宅介護事業所2、認知症対応型共同生活介護事業所5、特定施設入居者生活介護事業所1</p>			

事業名	介護人材確保事業	事業費（2024年度実績額）	3,692,900 円
<p>介護人材確保事業補助金を7事業所及び4施設に交付した。 また、介護職員研修受講助成補助金を17名、介護事業所等就労支援補助金を12名に交付した。</p>			

【懇話会の意見】

<p>介護サービス等の保険給付に関しての意見はなし。その他意見は下記のとおり。 ・実績に対する評価として、総数である母集団に対し、どれくらい実施されているか、また、数値目標に対しての達成率により評価しているが、事業によっては達成率が低い方が本来的には良いもの（例えば介護用品の支給等）もあり評価指標を見直した方が良いものがある。</p>
--

【自己評価】

<p>特別養護老人ホーム以外の介護施設（有料老人ホーム等）の選択肢も増えてきており、順調である。</p>
--

【課題の分析と今後のアプローチ】

第9期高齢者保健福祉計画において、特別養護老人ホームは100床増加を目標としているが、土地の確保及び介護職員の確保等が困難なため、既存施設の活用及び引き続き介護人材確保に対する財政的支援を行う。

また、事業所の施設・サービス種別の変更（ショートステイからの転換等）も視野に入れて、事業所の整備を行う。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表

【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名：療育教育総合センター

計画名	逗子市障がい者福祉計画
取り組みの方向	4 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けられるまち
具体的施策	①子どもの発達段階に応じた継続的な支援

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

療育教育総合センターを18歳までに一度でも利用したことがある市内の子どもの割合が18.9%になっている。



【現状：2024年度（令和6年度末）】

療育教育総合センターを18歳までに一度でも利用したことがある市内の子どもの割合は19.5%である。

【2024年度の取り組み実績】

事業名	療育推進事業	事業費（2024年度実績額）	93,999,031 円
18歳までの療育教育総合センター利用者の割合は、令和6年度末時点で19.5%となっており、目標値を上回っている。（令和6年度末利用人数1,604人/18歳以下人口8,242人＝19.5%）			
療育相談、児童精神科医師による講座、センターで行う勉強会で、保護者同士の交流の場を作り、家族支援を実施した。（公開講座1回 41人参加、就学に向けての家族勉強会3回 27人参加）			
児童発達支援事業（利用者：31人/延1,459回）放課後等デイサービス（利用者：59人/延1,766回）			

【懇話会の意見】

利用者数の増加により安定した定員充足率を達成しており、地域における関係諸機関との多様な連携のもとに充実した療育センターの役割を果たしていると評価できる。今後、なお一層の相談・療育の内容の充実を期待したい。情報発信ツールとしてSNS（Instagram）の活用開始は大きな評価に値する。充実した相談・療育の内容について、発達頻度の高いタイムリーな情報発信の必要性が感じられる。できるだけ多くの市民参加が望ましいことから、公募市民数の増加が期待される。

【自己評価】

18歳までの療育教育総合センター利用者の割合は、令和6年度末時点で19.5%となっており、目標値を上回っている。
市民向け公開講座については、オンライン配信も併用しての開催により参加しやすいと好評であった。「発達障害」、「療育」についての世間認知度が増し、利用者が増加している。
SNS（Instagram）を開設し、療育支援に関する情報発信を開始した。

【課題の分析と今後のアプローチ】

SNS（Instagram）を活用し、療育支援に関する情報発信力の強化に努める。
療育相談員、専門員等の適正な人員配置により、相談体制の強化に努める。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表

【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名： 障がい福祉課

計画名	逗子市障がい者福祉計画
取り組みの方向	4 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けられるまち
具体的施策	②障がいのある人の居住支援

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

市内におけるグループホームの施設数が12か所になっている。



【現状：2024年度（令和6年度末）】

8か所整備されている。

【2024年度の取り組み実績】

事業名	民間障がい者福祉施設整備等促進事業	事業費（2024年度実績額）	35,688,808 円
<ul style="list-style-type: none"> ・市内外のグループホームに入居する障がいのある人に、家賃の一部を助成した。（支給決定人数78名） ※市民税課税世帯の者については月額上限20,000円、同非課税世帯の者については月額上限15,000円 ・新たに設置を検討しているグループホームについて自立支援会議に諮った。 			

【懇話会の意見】

- ・株式会社の参入に対して、市としての方針を持っていたほうがいい。
- ・厚労省が「地域連携推進会議」の設置を義務付けたことを踏まえ、地域でチェック機能のある、市民の協力でグループホームの生活の質を向上させられる仕組みを目指せるとよい。また、理解促進が進めば、グループホームで働く人の確保にもつながる。
- ・施設数だけでなく質も大切。今後、施設数だけでなく定員数も目標に設定してほしい。
- ・グループホームの方から「どれだけ地域と馴染んでいるか」を、このような場で報告してもらい、議事録に残して地域にとけこむ姿を市民にPRしていくことが非常に重要。実際の生活で地域にとけこめているのかを確認・記録していくと、グループホームが新設されるときに参考にできる。双方が丁寧にやっていける工夫を、行政としても協力してほしい。

【自己評価】

概ね順調であるとみなせる。

【課題の分析と今後のアプローチ】

グループホームの設置を検討している事業者次第になってしまうため、実際の設置まで繋がらなかった相談も複数あった。引き続きグループホーム設置を検討している事業者へ補助制度等の情報提供を積極的に行っていく。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表

【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名： 障がい福祉課

計画名	逗子市障がい者福祉計画
取り組みの方向	4 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けられるまち
具体的施策	③障がいのある人の就労支援

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

福祉施設の利用者のうち、就労移行支援事業等を通じて一般就労に移行する人数が18人/年になっている。



【現状：2024年度（令和6年度末）】

福祉施設の利用者のうち、就労移行支援事業等を通じて一般就労に移行する人数は7人/年となった。

【2024年度の取り組み実績】

事業名	就労等支援事業	事業費（2024年度実績額）	2,146,532 円
組織・人材等の体制、職務環境・人事管理等の整備や毎年度の取組状況の検証等を行いながら、市役所における障がいのある人の雇用、定着について推進していく「逗子市障がい者活躍推進計画」に基づき、市役所で10日間勤務するトライアル雇用を2名実施した。			

事業名	知的障がい者等雇用促進事業	事業費（2024年度実績額）	4,470,000 円
市内在住の知的障がい者及び精神障がい者を3か月以上雇用する雇用主10件に対して、障がい者1人につき月3万円を支給した。			

事業名	障害者自立支援給付等支給事業	事業費（2024年度実績額）	1,030,578,429 円
障がいのある人の地域生活を支援するため訓練等給付を支給、機能訓練、就労支援などの通所系サービスを提供し、この通所系サービスを192人が利用した。			

事業名	相談支援事業	事業費（2024年度実績額）	30,211,496 円
自立支援会議専門会議就労支援部門において、関係機関との円滑な就労支援を行う体制づくりに取り組んだ。2回開催。			

【懇話会の意見】

就労支援について相談できる場が増え、進路を選ぶことや就労体験を気軽にできることで就労につながったという方が徐々に増えており、とてもよかった。また、就労につながらなくても、今の自分の働ける限界を知れる、自分ができるかもしれないことの見立てができる、といったことを市内で経験できることは非常によいことである。

【自己評価】

よこすか障害者就業・生活支援センターと連携して実施する「障がい者就労なんでも相談」、「ふれあいマーケット」のふれフェスinずしにおいての同時開催、「特別支援学校との進路に関する情報交換会」、就労支援員による事業主訪問などを実施したことで多角的な就労支援が出来ているとみなせる。

【課題の分析と今後のアプローチ】

自立支援会議専門会議就労支援部門における意見交換や情報共有を行い、関係機関の相互連携を深めていくとともに、「障がい者就労なんでも相談」をはじめとする当事者の相談の場による支援と就労支援員による事業主訪問を引き続き実施していく。

また、職場体験実習を利用してもらうために、市内企業に対して職場体験実習の受け入れを依頼していく。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表

【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名： 障がい福祉課

計画名	逗子市障がい者福祉計画
取り組みの方向	4 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けられるまち
具体的施策	④ バリアフリーの推進

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

「障がいや障がいのある人に対し、社会全体の理解が進んできた」と回答する人の割合が66%以上になっている。



【現状：2024年度（令和6年度末）】

令和6年度まちづくりに関するアンケートにおける「障がいや障がいのある人に対し、社会全体の理解が進んできた」の回答者が47.5%となった。

【2024年度の取り組み実績】

事業名	障がい者の住みよいまちづくり推進事業	事業費（2024年度実績額）	471,404 円
-----	--------------------	----------------	-----------

ふれあいフェスinずしを障害者週間に実施し、402人の参加があった。
理解促進研修・啓発事業及び自発的活動支援事業については、4事業を実施。
市が設置または管理する公共施設を整備する際にユニバーサルデザインの視点を取り入れたバリアフリーを進めるため、広く市民、高齢者、障がいのある人等の代表を含む関係者等の意見を聴取している公共施設バリアフリー懇話会を1回開催した。
(小坪2丁目県有地の活用(公園整備))

事業名	相談支援事業	事業費（2024年度実績額）	30,698,232 円
-----	--------	----------------	--------------

基幹相談支援センターで事業者を中心とした関係機関に対して、差別解消や権利擁護に関する研修を2回実施した。

事業名	障がい者権利擁護事業	事業費（2024年度実績額）	65,000 円
-----	------------	----------------	----------

市職員に対し、合理的配慮の提供をテーマにオンデマンド研修を行った。
障がい者の権利擁護啓発講演会を令和3年度から継続して実施した。

【懇話会の意見】

ふれあいフェスin逗子は多くの方の参加があり、理解促進へつながるため今後も続けていけたら良い。今後、参加者間での交流を増やし、さらなる理解促進へつなげてほしい。

【自己評価】

ふれあいフェスinずしや障がい者の権利擁護啓発講演会の参加者数は増加しており、障がいや障がいのある人への理解促進・啓発は少しずつ進んできていると考えられ、概ね順調であるとみなせる。

【課題の分析と今後のアプローチ】

引き続き上記事業を推進し、市内における障がいや障がいのある人への理解促進に取り組んでいく。
また、小中学校において、社会福祉協議会や当事者団体等と連携しながら、障がい、LGBT等社会的マイノリティとその多様な在り方や、高齢者の介護などを広く理解する福祉教育に取り組む。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表

【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名： 障がい福祉課

計画名	逗子市障がい者福祉計画
取り組みの方向	4 障がい者が安心して自分らしく暮らし続けられるまち
具体的施策	⑤ 地域生活支援拠点等の充実

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

緊急時の受け入れ・対応の対象となるハイリスク者の登録者数が30人になっている。



【現状：2024年度（令和6年度末）】

前年度の登録者数、22名から増減はなし。

【2024年度の取り組み実績】

事業名	障害者自立支援給付等支給事業	事業費（2024年度実績額）	1,030,578,429 円
-----	----------------	----------------	-----------------

緊急時の受け入れ・対応を行った実績はなし。
前年度の登録者数、22名から増減はなし。

事業名	相談支援事業	事業費（2024年度実績額）	30,698,232 円
-----	--------	----------------	--------------

基幹相談支援センターによる各相談支援事業所との連絡会を年12回開催し、相談支援機関と困難事例等を通じて、支援体制の強化に取り組んだ。
自立支援会議にて、地域生活支援拠点等の運用状況の検証・検討を行うとともに緊急時を見据えたシミュレーションを行った。

事業名	就労等支援事業	事業費（2024年度実績額）	3,223,579 円
-----	---------	----------------	-------------

障がい者の体験利用受け入れを行った事業所3か所に対して、事業種別に応じた金額を支給した。

【懇話会の意見】

8050問題等により、今後も登録の対象となるようなハイリスク者の増加が見込まれる。多くの方が登録するように周知方法等の工夫が出来る方が良い。

【自己評価】

一定数の事業所が登録され、制度として整備はされたが、未登録の市内事業所が存在しているため、引き続き登録を促していくこと、また登録された事業所に対しても、登録した機能以外の機能も担っていただくよう促していくことが必要。

【課題の分析と今後のアプローチ】

今後も事業について広く周知していき、緊急時の受け入れ・対応の対象となるハイリスク者の洗い出し、並びに対応できる市内事業所の登録勧奨を行っていく。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表

【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名：子育て支援課（子育て支援係）

計画名	逗子市子ども・子育て支援事業計画
取り組みの方向	5 誰もが心豊かに子育て・子育てできるまち
具体的施策	① 妊娠前からの子育ての相談・支援の充実

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

保健師及び助産師が、乳児がいるすべての家庭を訪問し、相談に応じている。



【現状：2024年度（令和6年度末）】

対象児：230人
訪問実施：222人
実施率：96.52%

【2024年度の取り組み実績】

事業名	赤ちゃん訪問事業	事業費（2024年度実績額）	2,296,374 円
<p>本訪問事業は、産院での2週間健診、1か月児健診の後に、子育て支援課子育て支援係の助産師・保健師等専門職が訪問に行っています。その後、特に転入者や地縁の無い家族に対して、主任児童委員が訪問するえがお訪問をご案内しています。社会資源も一緒にご案内することで、相談しやすい、地域とつながりやすい、孤立しない子育て支援を目指しています。希望があれば、里帰り先への訪問依頼や、逗子への里帰り産婦・赤ちゃんの訪問も実施しています。</p>			

【懇話会の意見】

- ・ ネットでの情報があふれている中、リアルな（信頼できる）情報を伝えることの大切さを感じます。
- ・ マイナスなイメージの情報共有が無く、家庭にとって訪問が当然のこととなっているとのことで、100%に近いことはとても素晴らしいと感じます。
- ・ 産後ケアの情報を聞きたかったという声を聞くので赤ちゃんの訪問の際に話があると良いと思います。

【自己評価】

訪問の実施率が100%に達しなかった理由としては、訪問日程調整のための連絡が繋がらなかったことや長期里帰り中や他市町村への転出で訪問の希望が無かったこと等が挙げられる。今後は、里帰り先や転出先での市町村の訪問をこれまで以上に促していく。

【課題の分析と今後のアプローチ】

- ・ 妊娠期から産後の支援強化として経済的支援と伴走型支援（専門職の継続的支援）を並行して実施。
 - ・ 情報を1冊にまとめた子育てガイドの作成・配付を継続（年度毎に更新）。
 - ・ 対象者の状況やニーズに合わせて訪問だけでなく集団指導等他の手段も取り入れ対応。
- 例）令和6年度より産後1～3か月頃を対象とした教室（パパママ準備クラスFourth Step）の開始。
- ・ 本事業の訪問だけでなく、居住年数の少ない家族には主任児童委員（民生委員の中で児童福祉に関することを専門に担当）えがおサポート訪問や地域のサロンにつなげる等、他部署・他機関との連携を強化し、家族の孤立予防に努める。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表


【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名：子育て支援課（子育て支援係）

計画名	逗子市子ども・子育て支援事業計画
取り組みの方向	5 誰もが心豊かに子育て・子育てできるまち
具体的施策	② 子育てを支える取り組みの推進

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

【現状：2024年度（令和6年度末）】

ファミリーサポートセンターに登録している支援会員（両方会員を含む）の登録人数が550人になっている。		423人（令和5年度末より8人増）
--	---	-------------------

【2024年度の取り組み実績】

事業名	ファミリーサポートセンター運営事業	事業費（2024年度実績額）	10,971,245 円
<p>子育てについて地域の人たちがお互いに助け合っていくことをめざし、子どもの預かりを相互援助活動として行う。</p> <p>目的：安心して子育てができる環境を整える。</p> <p>手段：事業者への委託により、子育てについて、地域の人たちがお互いに助け合っていくことをめざして子どもの預かりを行う相互援助活動の仲介、及び支援を行う会員の育成を行う。実績：依頼会員1,310人、支援会員231人、両方会員192人 活動件数1,683件</p>			

【懇話会の意見】

<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーサポーターが増えないことで、研修方法の検討がされているが、質の問題となる。昨今の風潮で、いろいろな責任問題があるなか、サポーターさんの質の向上と負担減も課題でないかと考える。制度上の制約があるのかもしれないが、謝礼についても再考の余地があるのではとも考える。 ・ファミリーサポート支援会員です。若いママの支援が出来て、私は、生きがいを感じています。このような声をもっと、アピールしていくべきかと考えます。

【自己評価】

<p>昨年度からの課題について、課題1つ目として連続した日程の解消があった。支援会員になるためには研修を全て受講する必要があるため、連続した日程だと休みがとれず参加できないとの声が多かった。そのため令和6年度は、連続で6日間にならないように開催をした。</p> <p>課題2つ目として開催場所へのアクセスの改善があった。以前は体験学習施設スマイルで開催していたが、令和6年度は第1回第2回共に市役所会議室で行った。しかし開催形態以前の問題で、受講者数の確保に課題があり、これらの変更は受講者数には影響していない。</p> <p>良かった点としては、託児場所について市役所会議室から子育て支援センターでの開催に変えたことが、受講後のアンケートで好評だった。会議室での開催よりも託児の環境が整っていて安心できるとの声、また無料で託児を利用できることを評価する声があったため、今年度も市役所での開催であれば継続する予定。</p>

【課題の分析と今後のアプローチ】

受講者が増えない原因として、周知不足と、研修期間の長さが考えられる。

周知方法として、現在は広報誌、広報板、チラシでの周知を行っているが、メルマガへの掲載等、新たな周知方法をとる。またアンケートの声として、いつでも見られるようにオンラインが一部あるとよい、昼をまたがない時間帯がよいなど、受講期間の長さに対する意見があった。そのため、講座時間を工夫する、またオンラインで受講・復習ができるようにするなどの新たなアプローチをとる。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表

【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名：

保育課

計画名	逗子市子ども・子育て支援事業計画
取り組みの方向	5 誰もが心豊かに子育て・子育てできるまち
具体的施策	③ 幅広い保育ニーズに対応できる体制づくり

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

保育所等入所待機児童が0人になっている。

【現状：2024年度（令和6年度末）】

6人(令和6年度当初)



【2024年度の取り組み実績】

事業名	利用者支援事業	事業費（2024年度実績額）	5,137,411 円
一人ひとりの子どもが健やかに成長することができる地域社会の実現に寄与するため、子育て家庭や妊産婦が、その選択に基づき、多様な教育・保育施設等を円滑に利用できるよう必要な支援を行った。			
・ 保育所等利用者支援員報酬及び手当 5,137,411円			

事業名	民間保育所等運営支援事業	事業費（2024年度実績額）	42,181,110 円
保育士確保の取り組みとして、民間保育所の保育士等の職員の確保に要した費用に対して補助を行った。			
・ 民間保育所人材確保補助 1,510,000円			

事業名	幼児教育・保育無償化給付等事業	事業費（2024年度実績額）	77,739,503 円
幼稚園就園等に係る支援として、幼児教育・保育の無償化による給付を実施した。			
・ 幼稚園（上限25,700円/月） 104人			
・ 認可外/一時預かり保育施設（上限37,000円/月） 112人			
・ 預かり保育事業（1日につき上限450円） 152人			

【懇話会の意見】

・ 人材の確保は他市との取り合いになってしまっている。保育士確保により一層力を入れるべき。そのためには確保補助金の増額だけでなく、他市のように保育者の処遇改善を行うべき。保育者不足の為の待機児童が増加すると考える。

・ 他市との間で、子育て世代というより子ども世代の市民の取り合いになっている。市政の中で、子育て施策に最も重点を置くべき。

・ 安全性と地域の安心を軸としつつ、認知拡大・多様化への対応が求められると思う。

【自己評価】

保育所等利用者支援員による適切な情報提供等もあり、待機児童数は前年度より減少した。

【課題の分析と今後のアプローチ】

待機児童がいる一方で、希望入所先と年齢が合わないことから、空きのある保育所等もでてしまい、保育需要と供給のミスマッチが起きている。

引き続き、市内全域で情報共有と連携を強化していく。

2024年度（令和6年度）逗子市地域福祉計画進行管理表

【第4章第2節福祉分野の個別計画施策体系】

所管名：子育て支援課（青少年育成係）

計画名	逗子市子ども・子育て支援事業計画
取り組みの方向	5 誰もが心豊かに子育て・子育てできるまち
具体的施策	④ 子どもたちの居場所づくりの推進

【数値目標：2029年度（令和11年度）】

体験学習施設「スマイル」の主催講座の延べ参加者が2,000人/年になっている。



【現状：2024年度（令和6年度末）】

1,239名参加（延べ人数）
委託講座 15講座
自主企画講座 37講座

【2024年度の取り組み実績】

事業名	体験学習施設講座等事業	事業費（2024年度実績額）	757,836 円
◎主催講座			
・延べ参加者数 1,239人 52講座			
◎主催イベント			
・スマイルハロウィン 10月27日（日）参加者数 約2,000人 （ワークショップ、スタンプラリー、仮装コンテスト等を実施。）			

【懇話会の意見】

- ・数値目標に全体的な来館状況を入れた方が具体的施策に合うのではないか。
- ・体験学習施設だけでなく、逗子の子どもたちの居場所はどこなのか調査又は検証したほうがよいのではないか。

【自己評価】

2023年度と比較して、講座の延べ参加者数が増加したが、目標の人数には至らなかった。

【課題の分析と今後のアプローチ】

2024年度は、前年度に比べ、参加者数が増加したが、目標には大きく届いていないため、引き続き子どもたちがより参加したいと思える講座を企画していく。